



岩見川と三内川の合流地点に立地する学校

秋田市立岩見三内中学校

地域の自然素材を生かした探究活動の実践
～岩見三内地域のジオパーク化を目指して～

岩見三内の自然の魅力を伝えたい

川の怖さとすばらしさを体感

2005年に秋田市と合併した旧河辺町の岩見川沿いに建つ秋田市立岩見三内中学校では、全校生徒22名が地域の自然を対象とした探究活動を行っている。昨年7月の秋田豪雨では校舎が床上浸水したが、この被害も教育機会と捉え、防災教育とともに岩見川の特徴や浸水しやすい学校の立地などに関する探究を行った。菅原明校長は「科学的な理解がなければ、本当の防災意識は身につけませんから」と活動の理念を説明する。

一方で、川は害をもたらすだけではない。同校で15年続く水生生物観察会では「ヤマメやカジカ、きれいな水質の指標生物であるヘビトノボの幼虫もいて、貴重な清流であることを認識しました」(3年佐藤一平さん)と川のすばらしさも実体験として学んでいる。



10月27日(日)、生徒たちはブラウブリッツ秋田(J2)のホームスタジアムで地域のPRブースを設ける予定



地域の立体地図を用いた水害メカニズムの探究



岩見川および三内川での水生生物観察会

地域の地学的資産をジオパークに!

また、カヌー体験をした3年の佐々木奏侑さんは「普段は対岸からしか見られない地層を間近に見て、迫力に圧倒されました」と言う。この岩見川の浸食による露頭などの地質も同地域の特色のひとつで、今年度からはジオパーク認定を目指す活動も始めた。その一環として県内のジオパークを見学した1年の山上翔矢さんは「地元にある国指定天然記念物の筑紫森岩脈(溶岩円頂丘、柱状節理)に行ってみよう」と前向きだ。

同じく1年の小笠原弘礎さんは「地質や川はもちろん、特産品など地域の良いところを広く知ってほしい」と言う。担当の保坂学教諭も「生徒が地域の魅力に気づき、発信したいと思うようになりました。ジオパーク認定でも普及活動は重要なので、活動の発信に力を入れたいです」と話す。秋田市との合併以後も人口減少が進む同地域ではあるが、小規模校だからこその学校一丸となった魅力発信への思いが伝わってきた。(個別校助成)



かつて地域で出土した500万年前のメムゾラの筋骨の化石



男鹿半島大淵ジオパークで化石発掘を体験



●実施担当

保坂 学 教諭

●活動のモットー

実感を伴った理解を促すために、生徒に「この学校でしかできないこと」を数多く体験させたい。

学校概要



「地域に根ざした教育活動」などを理念に、「自信と誇りをもって自己表現できる子どもの育成」を目指す校舎一体型小中併設校。

設立:1947年

生徒数:22人

所在地:秋田市河辺三内字外川原39

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。BME(Bio Medical Engineering)分野の発展を願い、表彰事業をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、小中高校生の科学探究活動に対し助成事業を行っている。2024年に設立40周年を迎えた。

中谷財団

検索

